

2025年度(令和7年度) 高崎経済大学
経済学部 前期日程 問題訂正

【 国語 】

訂正箇所

五頁 問題一 十二行目

正	誤
(できない)ことを、	(できないこと)を、

六頁 問題一 最後の行

正	誤
その手前の、	その手間の、

国語

(国語)

答案作成上の注意

- 一 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入しなければいけません。
- 二 国語は(一)ページから(二十四)ページまでです。
- 三 解答用紙の受験番号欄は三か所です。氏名を書いてはいけません。
また、※印欄には何も記入してはいけません。
- 四 解答には筆記用具、消しゴム以外のものを使用してはいけません。
- 五 解答の文字は正確かつ丁寧に書きなさい。特に漢字は楷書で書き、くずし字や略字を使用してはいけません。また、字数指定がある場合は、句読点等も一字とします。
- 六 問題冊子と使用しない解答用紙は持ち帰ってください。

問題一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

動物は、さらには生物全般が、害と死を避けようとしているとは言えよう。その存在が殺されるのだから、悲しいことであるとも言えるだろう。それに対して、けれども仕方がないと言うとしたら、どのような言い方になるだろうか。

一つに、トウタ^①を通して進化を信じる人は、殺したり、生き残ったりすることのなかで生物は進化するのだから、殺生が支持されると言うだろう。たしかにトウタを介して環境への適応度が高まるといったことがあるかもしれない。ただ、その進化がとくに望ましいことだと考える必要はなく、そのために殺して食べることが正当化されると、私たちは考えない。より優れた生物の出現が必要であるとは考えず、そのために摂食・殺害・トウタが必要であるとは考えないからだ。そこで私たちは、この主張を殺生を認める理由として採用しない。

食べられ殺される生物がある。他方で、食べる・摂取するほうの生物は、食べることも望んでいると言えるだろう。だとすると、なぜ食べられることが負であることのほうを優先するのか。殺して得ている、その快は苦を上回っている、だからよいのだといったことを言う人はあまりいないとして、合わせれば苦と快とは均衡しているといったことを言う人はいる。

それに対しては、比較のしようがあるのか、という問い方はあるだろう。一方でよいことのある存在もあるが、他方で殺される存在もあり、そのできごとを見た時、どちらがより望ましいかがはっきりしていることはそう多くはないはずだ。

食べる・食べられるといった一対一のそのセツナ^aの¹ことを見るなら、このようだ。たしかに、殺され食べられそうな場面で、それを避けようとしていること、そのセツナのことであつたとしても、苦痛を感じているといったことは言えるだろう。

3 さらにいくらか複雑な場面になるとどうか。とくに飼育という要素を入れるとどうなるのだろうか。自然界で暮らすよりも、人間に飼われたほうが、さらに食用にするために飼われたとしても、そのほうが長く生きられる可能性は高いといったことはあるだろう。それで寿命をまっとうできるといった場合もあるだろうが、屠殺される場合もある。しかしそうした場合でも、野生にいるよりもより長く生きられるといった場合はある。

4

そんな時、家畜になって平穏で長生きできたほうが

よいと思う人と、野生でスリルのある人生がよいと思う人と分かれるかもしれないが、当の動物に即した時にはよくわからない
としか言いようがない。動物の「家畜化」を嘆く人たちがいて、それもわからないではないのだが、野生のままにいるほうが必ず
よいとも言いにくいはずである。

さらに、ここで X されるのは、ゲンコン^bの生物界と、殺生全体が極小化された世界とだ。生物、生物界のあり様の基

本が変更されることになる。

6 とすると、その前の世界にいた生物と変更後の世界にいる生物とはまったく異なる存在
であり、後者のほうが、前者から見たときによいなどと言えるだろうか。比較のしようがないし、さらに、変更したほうがよい
と言える根拠が見当たらない。柵を破って逃げ出したりする家畜がいることをもって、そんな、そしてやがて殺される境遇より
も、そうでない境遇のほうがよいと言えるだろうことは認めるところ。しかしそれは、より苦痛を少なくしようとその世界を
変更することが、よりよいことを示すものではないのである。

その人たちは自然を大切にしようという人たちのはずだから、その自然のままという主張と、自然の変更が求められること
と、この両者は論者の各人において、どのように、辻褄が合わされているのか、合っていないのか、あるいはこの論点に気づい
ているのか。私は関心がないが、興味のある人は調べてみたらよいだろう。ただ大きくは二つに分かれるようだと言える。一
つには、人間のことに限定するものだ。人間である自分(たち)だけがなすべきことだと考えるのである。その気持ちはわからな
いではない。しかし、その気持ちから発する掟を他人たちに及ぼせるか。他人たちに及ぼすなら、なぜ人間に限られるか。人間
だけがなすことに限つてならできるとは言えたとしても、だから人間がするべきだという論には与しないことを述べた。後にも
う一度、このことについて考え、確認することしよう。

ここでは人間だけが、という立場を採らないとすると、もう一つ、(可能なかぎり)すべての動物・生物がその方向に行くこと
をよしとすることになる。これを主張するほうが少数派ではあるだろうが、一貫はしている。その人たちは自然のままを支持し
ないことになる。以下、繰り返し、確認しよう。

とすると、別の、殺生しないという規範に^②テイシヨクしないものを与える、それを与えられて生きることができるようになる。つまり、この規範のもとで有効なことを行なうなら、それは生物の世界全体に対する行ないとなり、そのように世界を改変するべきであるとなる。

そんなことは実現可能性において無理なことだということだけのことではない。人間の側に、と限らなくとも、変更を考えている側に、そこまでの権利はないはずだ。意を同じくする者たちだけの世界であつたら、そこでその者たちの一致した意思による行ないとなつたら、一挙にそのような世界にすることはあるかもしれない。しかし実際の世界はそうではない。

許容されるのは、せいぜいが個別の利害を推量することであり、そのもとでいくらかを実践することであろうと思う。その生物たちが痛みを避けようとしているとは言えようが、そのことをもって、世界全体を変更することに同意していると推量するのは行き過ぎだ。そうして営まれている世界を否定するだけの根拠を思いつかない。そんなことをする権利は誰にも、そして人間にはないと考える。

このように述べる^Bと、私たちが極端な想定を行ない、その想定を用いて、殺生を否定することを否定しようとしているという批判があるだろうか。しかし私たちは、たしかに極端な状態を想定したが、それが極端であるために実現できないからやめようと言ったのではない。困難であるのは確かだが、しかし、極端で困難だから取り下げよ、と言っているのではなく、そのよしあしを問題にしている。そしてよくないと言っているのだ。

殺してはならない、について、人間の動物・生物に対する行ないに限定することに正当性が得られれば、違つてはくるかもしれない。行なうべきことの範囲は大幅に狭まり、すべきことの量は少なくなるだろう。人間だからできる、せめて人間がする、というのは、わからないではない。しかし、そのことが言えるだろうか。

まずなされる主張の一つは、肉食は食べるもののないある種の動物については仕方がないが、他のものを食べるのできる人間にとっては必須ではない、だから食べる・殺すのをやめるべきだというものだ。人間にとって動物を食べることは、生きて

いくのに必須ではないというのは、そうだろう。ただ、猫にしても、どうしても小鳥を殺して食べないと生きていけないかといえば、そんなこともないだろう。さらに、猫だったら、食べないで殺すこともある。とくによいことも思わないが、それをよくないことだとし、なすべきではないとし、そのようなことが起こらないようにするべきか。そんなことはないだろう。

次に、人間ならできるが、他の動物にはできないとは言えない。肉食の動物を、植物を食べるようにすることができていることがある。あるいはそのような動物の性格・性質を変えることができることがある。実際、そのような方向に主張が行くこともある。そしてそれはまったく不可能というわけではない。

以上は、人間に限ればできるから、人間に限って殺生をやめようという主張のゼンダン^cについての検討、そして否定だ^cった。すると、動物に対する動物について、殺生・肉食をやめることが可能かどうか、やめさせることが妥当かどうかとは別に、そして、やめさせることは少なくとも部分的には可能だが、妥当ではないことを認めたく^cないで、人間だけがやめるべきだと言えるのである。たしかに、人間は、すべきことを理解し、それを実行することはできる。そして別のものを食べるようにすることができる。雑食動物である人間はその度合いがより高いとは言えるかもしれない。しかし、他の動物に対して（あまり）強く言えない（できないこと）を、人間に対して言えるだろうか、苦痛を与えることはよくないからやめようとは言えるし、それは理解できる主張だが、苦痛は与えるだろうが殺生全般を否定できない、否定すべきでないというのももつともだ。多くの人たちが両方のことを思っていると思うが、もっぱら前者を主張する人たちの主張を、すべての人間の行為全般について採用するべきだと言えるだろうか。

まず言われうるのは、人間はより高級・高等な存在であるから、というものだ。人間こそが模範を示すべきだとか、世界において支配的・指導的な立場にいるのだから、という理由づけは実際に言葉にされることがあるようだ。ただ、そのような位置に自らを置くこと、その位置を得るため、あるいは維持するために殺生しないという構図を——「非人間中心主義」などと言うあなた方が受け入れるのか、と言いたくもなるが、それは控えることにしても、すくなくとも——自らは受け入れられない、私はそんな存在でありたいわけではないと言って、その役割を受け入れないことはできるだろう。

また、世界の支配者として、支配者だからという発想はないとしても、例えば来世での救いを得ようとして肉食を避けるという仏教的なリロ・実践^dの方向もまた理解できない。しかし、そんなことをして自分によいことがあるという話を私は信じられないと返すこともできるし、またその説教は正しいのかもしれないが、自分は受け入れないと言う人もいるだろう。

さらにもっと日常の感覚として、苦を与えることは避けよう、それを行なうという心情もわかる。しかし、以上のすべてについて言えることは、それを人間全体の義務・規範とすることはできないだろうということだ。このことは、さしあたり規範を設定するその範囲は人・ヒトに限られることを認めたとしても、その限られた全体に及ぼすべき理由を見出せないのだから、言える。さらに、とくに人・ヒトという範疇の特権化するのとはよくないという主張が、殺生を否定する人たちにあったのだが、その立場を採るなら、なおさら、人・ヒトの全体が、すくなくとも本来は、その規範に従うべきであるということとはできないはずだとなる。

「すべての人間の」という条件が厳しすぎるのだと思う人はいらるだろう。実際、自分は肉を食べないという人の多くは、そこまでする大きなことを考えていない、言っていないだろうと思う。しかし、例えば「権利」とは、普通は、すべての人がその権利の実現を妨げない、あるいは実現のためにすべきことをする「Y」を負うことを指示するものなのだから、私(たち)が大げさな、きつすぎる条件を設定しているということにはならない。

では動物擁護の人たちから聞くことはないのか。そんなことはない。まず、人間の行なっているその殺生はあまりにも大規模である。とくに大規模工場のような場でのことも含めれば、苦痛を与えるのは、他の動物が行なっているように殺生の瞬間だけではないという指摘にはもつともなところがあると認めよう。そして一つ、やはりこれもよく指摘されるように、そのように殺すこと／殺されること、その手前のことのほとんどは、私たちのほとんどすべてが、見たり気にしたりすることなく、そこからすつかり逃れられている状況においてなされる。そのことを、まずいくらかは知るべきだというものもつともなことだ。関連してもう一つは、資源の問題とのかねあいだ。大量の工サ^eを食べ、環境によくないものを、例えばそのげつぷにおいて二酸化炭素をハイシユツしながら、食べ続けさせられて太った動物を食べるよりも、その手間の、工サとされる植物を食べたほうがよい。

これもよく言われる。そして、こうした指摘については、実際にはどれほどのことか、いささかの実証的な猜疑心はあったほうがよいと思うが、それでもおおむねもつともだと思う。ただ、そのうえでここまで述べてきたことは否定できないはずだ。

(立岩真也『人命の特別を言わず／言う』による。一部改変。)

(注)

1 アメリカの作家で障害者および動物の権利運動の担い手でもあるスナウラ・テイラーは、その著作のなかで「動物が自己の解放を求めて行動を起こすことができ、また実際にそうしてきた事実」があるとして、動物たちが檻や柵から逃げ出そうとした事例を列挙している。筆者はこのことに本文以前の段階で触れている。

2 脱人間中心主義や脱種差別主義的な言説のなかで、人間が他の動物を殺生してはならないといったことが語られていることがある。この点について、筆者は本文以前の段階でそれもまた人間・ヒト中心主義ではないかと批判をしている。

問一 傍線部①③に相当する漢字を含むものをそれぞれア、オのなかから一つ選び、その記号を答えなさい。

① トウタ

ア 地獄のサタも金次第とはよくいったものだ。

イ 恩師のようにリタ的な人間になりたいと思った。

ウ 監督が大声で選手たちをシツタ激励していた。

エ メツタなことを言うもんじやないと祖父から叱られた。

オ 花火大会で会った彼は浴衣姿にセツタという格好だった。

② テイシヨク

ア 子どもの進学費用にと、彼は持っていた一切合切をテイトウに入れてでも金を工面するつもりだったようだ。

イ 金に困っていた彼は、諸方面に借金があつたようで、誰に会うときでも常にテイトウ平身といった感じがした。

ウ 自分は社会のテイヘンで生き抜く覚悟はあつたが、せめて子どもだけは真つ当な道を進んで欲しいと願っていた。

エ 控えめな性格が裏目に出てしまい、いつまで経っても昇進できず役職なしの平社員というのが彼のテイイだった。

オ 大学生になる子どもと改札で別れ、振り向きもせず去る彼に向かい、彼の子はテイチヨウなお辞儀をしていた。

③ ハイシユツ ア 彼個人のために創設されたといつても良いそのポストは、彼の失脚によつてすぐにハイゼツとなつた。

イ 当時、彼の唱える思想はあまりに過激と捉えられたのか、罪に問われ、孤島へとハイイルとなった。
ウ お手紙を受け取り事の次第を知りましたが、言葉に尽くせぬご苦勞があつたものとハイサツいたします。

エ あくまで彼女の一存で、組織に役に立たないと判断されたら、すぐにそこからハイセキされていつた。

オ まるで夢遊病者のように、彼は一晚中、青春時代を過ごしたその街をフラフラとハイカイし、朝を迎えた。

問二 二重傍線部 a s e のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問三 本文中の 1 6 のなかから、次の一文が入るのに最も適当な箇所を一つ選び、その記号を答えなさい。

殺さない／殺されないことのほうがよりよいことだとは言えない。

問四 傍線部 A「動物の「家畜化」を嘆く人たち」とは、どのような考えを持つ人たちか。「動物の置かれている環境について……をする人たち」とつながるように最も適当な言葉を本文中から探し、十字で書き抜きなさい。

問五 空欄

I

には、次のア、力の文章を並び替えたものが入る。空欄 I を完成させるために、次のア、力を適当な順に並び替えて、解答欄にそれらの記号を書きなさい。ただし、三番目に入る文章は「力」とする。

ア 基本的な仕組みを動かすことになる。それは、わりやりのことではある。そしてそれは、その相手の「意を汲んだ」ものであったとしても、人間が行なおうとすることだ。

イ すぐなくとも、たいして有効な行ないではない。

ウ 食べることをやめさせることができたとして、しかしそのままでは、食べることができなかった動物は死ぬだろう。

エ 食べることを否定するとは、生物における世界の営みを否定するということだ。

オ ただ、殺生することをやめさせることを局所的に行なったとしても、それは有効な行ないではない。

カ 個別に、傷ついた動物に出会ったり、保護することはあるし、あつてわるいことはないだろう。

問六

傍線部B「私たちが極端な想定を行ない、その想定を用いて、殺生を否定することを否定しようとしている」という批判があるだろうか」とあるが、次の文章は筆者がいう「極端な想定」を用いて、殺生を否定することを否定することを表している。この文章の空欄(1)～(3)に入る最も適当な言葉を指定された字数で本文から書き抜きなさい。

(1)(九字)

が

(2)(五字)

ように世界を改変する

(3)(二字)

は誰にもないということ。

問七 傍線部C「そして否定だった」とあるが、筆者が「否定」する理由として最も適当なものを次のア～カのなかから一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 他の動物の殺生を止めさせるといふ行為そのものが、人間だけでなく、いまの自然界全体に対して、人間側から変えていくということにつながりかねず、たとえば肉食動物を死なせないために肉食ではなくさせるなど、人間を含むすべての動物が以前とまったく異なる存在になつてしまう恐れがあるから。

イ 動物の殺生禁止の有効性が疑われるなかで、それでも妥当かどうかは別にしてそのことの可能性を考えたとき、そんなことをしても自分によいことがあるのか、と考える他の人間に対して強く殺生の禁止を打ち出せるほどの理由もなく、実現可能性が極めて乏しいため、やめるべきだと言わざるを得ないから。

ウ 他の動物に殺生を禁じられない以上は、人間だけでもそうしたことを禁止するという考え方は理解できなくもないが、自然界において食べられ殺される動物と食べる・摂取する動物がいて、どちらが正しいともいえないなかで人間だけが勝手に殺生禁止を打ち出しても根本的な解決にならないから。

エ 雑食である人間であれば、他の生物を殺し肉を食べなくても生きていけるという主張は認めうるものだが、そもそも他の肉食動物に対して肉食以外の食事で生き永らえさせることがまったく不可能かと問われるとそうとも言い切れず、そうなる人間に限定して殺生を禁ずることができないから。

オ 必ずしも食べる必要がないのに動物を殺すことに対する疑念はもつともだといえるが、仮に肉食でしか生きられない動物が食すること以外で他の動物の命を奪うこともよいことだとはいえないため、道理としてはそれも禁止しなければいけないことになり、現実可能性において無理だから。

カ 人間の一存で他の動物を殺生する人間中心主義的な考えを批判し、人間は他の生物を殺生してはならない、という考えにいたった場合、自然界で人間だけ殺生を禁止することへの正当性を得るには、人間を他の動物よりもより高等・高級な存在として位置づけることになり、自然のままではなくなるから。

問八 本文中の X と Y に当てはまる最も適当な言葉を、本文からそれぞれ漢字二字で書き抜きなさい。

問九 傍線部D「苦痛を与えるのは、他の動物が行なっているように殺生の瞬間だけではない」とあるが、以下の文章は、アニメ

ルウエルフェア(家畜福祉)の観点からこのことについての問題点を指摘するものである。文章の空欄 A A

C、また 甲 乙 丙に入る最も適当な言葉を指定された字数で書きなさい。なお、A A

Cの言葉は本文から書き抜きなさい。また同じく 甲 乙 丙には、前後の文脈を踏まえて適当な言葉

を書きなさい。

より多くの食用肉をより効率よく生産するために取られている集約畜産は、まず動物たちの 甲(二字) 環境が

A(二字) にいる動物とまったく異なる。大規模畜産工場では、限られた 乙(二字) のなかで、ほぼ自由を奪わ

れた状態で動物たちが大量に B(二字) されており、こうした劣悪な環境によるストレスに耐え切れずお互いを傷

つけあったり、最悪なケースはそのせいで死ぬ動物もいる。つまり、こうした場において C(二字) 化された動物

たちは、生きている間も、丙(四字) その瞬間も、苦痛を感じていることになる。

問十 筆者の意見としてふさわしくないものを次のア～カのなかから一つ選び、記号を書きなさい。

ア もちろん動物を擁護する人たちの意見にも聞くべきことはあり、そしてそれらの意見は多少疑ってかかることはあつても、おおむねはもつともなものが多いのだが、それでも動物を殺すことは悲しいが仕方ないといういくつかの理由を覆すことはできない。

イ 極端な想定、厳しい条件をつけて人間が他の動物を殺生することはできないとする考えを否定してきたため、殺生禁止を否定するために、そうした厳しい想定、条件をつけているとの批判もあり得るが、そもそも実現困難であるから否定しているわけではない。

ウ 動物を飼育するということは、野生のまま生きるという選択肢を動物から奪うことになり、だからこそ柵から逃げ出す動物もいるわけだが、一方で自然界でそのまま暮らすよりも結果として長生きできる場合もあり、どちらがよいかは必ずしも断言できない。

エ 他の動物を殺さないということについて、人間である自分(たち)だけがなすべきだと考えることはわからなくはないが、仮に人間だけに限れば他の動物の殺生を禁ずることができるといえても、だから人間は殺生してはならないという論調には同意しない。

オ 食べられ殺される生物と食べる・摂取する生物がいるなかで、前者の苦の方が後者の快をどうやっても上回っており、後者にとつてはよいことでも、前者にとつてはよくないことで、食べられる瞬間には前者は苦痛を感じているということ自体はたしかにいえる。

カ そもそも殺し、殺され、生き残るといった過程を繰り返してより強い生物が生まれたとしても、それは単なる一つの結果であつて、そうした生物を生み出すことを私たちが特段の目的としていない以上は、その過程で必要となる殺生にも意義を見出しづらい。

問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「スポーツウォッシング」という言葉を日本のオンラインニュースや新聞・雑誌など、活字メディアの記事でちらほらと目にするようになったのは、恐らく2020年頃だろうか。

目にするとは言っても、記事内では必ずと言っていいほど毎回、その意味を説明する文章が添えられている。つまり、スポーツウォッシングという用語は世間の誰もが知っているほど認知度の高い用語ではなかった、ということだ。それは現在でも恐らく変わらない。

2020年頃にこの言葉を日本のメディアでも見かけるようになった理由は、2021年夏に開催された東京オリンピック・パラリンピックと、2022年の北京冬期オリンピックが控えていたからだろう。

この両大会は、世界全体が不安定な世情に揺れていた真最中に開催されたこともあって、様々な論点から大いに醸した。^①東京オリンピックは開催準備期間から噴出したいくつもの不祥事に加え、新型コロナウイルス感染症が世界で蔓延し始めたために1年先送りになり、その2021年には、世界的な感染状況が沈静化していない中で大会を開催することの妥当性をめぐって世の中が大きく揺れた。

北京の冬期オリンピックでは、中国政府の抑圧的な人権政策への批判として、開会式の外交的ボイコットという手段をとる国が続出した。さらに、オリンピック閉会式の数日後、パラリンピック開会式前の2月24日にロシアがウクライナ領土へ侵略を開始したことが休戦協定に反するとして、ロシアとベラルーシのパラリンピック選手団は出場禁止処分となり、すでに現地入りしていた選手たちは大会に参加せずに帰国することとなった。

スポーツの熱狂で、人々の関心や意識をこれらの大会の問題から目をそらせようとしている、として用いられた言葉が、「スポーツウォッシング」だ。

この用語を説明する際には、米パシフィック大学教授で、自らもオリンピックのアメリカサッカーチーム代表という経歴をもつジュールズ・ボイコフ氏の論述が援用されることが多い。

「オリンピックが、開催地がスポーツウオッシングをする絶好の機会になっているのは、歴史が証明している。」
『オリンピック 反対する側の論理』(作品社)。

X

スポーツウオッシングという言葉は、オリンピック批判にのみ使用されるわけではもちろんない。

人々の興奮と共感と感動を集める大規模スポーツ大会のソフトパワーをテコにして、開催地に都合の悪い事実をヴェールの下へ覆い隠してしまおうとする行為には、おしなべてスポーツウオッシングという指摘があてはまるだろう。これに利用されるスポーツ大会はゴルフや競馬からモータースポーツ、サッカー、そしてオリンピックまでじつに多岐にわたる。またスポーツウオッシングを使って自らに都合の悪い事実を洗い流そうとする国家や政権は、独裁国家や権威主義的体制に限ったことではない。先のボイコフ氏の著書でもこの点について端的な指摘がされている。

「民主主義社会でスポーツウオッシングは^(注)ジェントリフィケーションや警察の過剰な取り締まりといった不公正なプロセスからわれわれの注意をそらす。そして、人権侵害は欧米の民主主義国でも日々おきていることなのだ(同前)」

このボイコフ氏の説明をわかりやすくいえば^A「気づかないうちに誰もが日々、スポーツウオッシングにさらされている」ということだ。

スポーツの政治利用は、なにも近年になつてはじまったことではない。ことスポーツウオッシングに関する限り、その先駆とされるのが1936年のベルリンオリンピックであることは広く指摘されている。

ヒトラーとナチス政権に対しては、この大会が始まる以前から厳しい批判が向けられていた。その批判をやわらげ、自分たちの好イメージを世界へ向けて宣伝するために彼らがこのオリンピック大会をどんなふうにご利用し、それがどれほど巧みに成功を収めたかについては数多くの資料がある。

ヒトラーとナチス政権が行ったこのスポーツウオッシングに対して、当時のメディアはいとも簡単にへ^Yまされた。まったくようだ。

「ニューヨーク・タイムズ」は「ヒトラーは今日の世界において、最高ではないとしても^bの政治的指導者だ。ドイツ国民はさんざん悪くいわれているが、人を温かくもてなしてくれる、実に穏やかな人びとで、世間から^cされてしかる

べきだ」(1936年8月16日)「訪れた人びとの心に深く刻まれたのは、素晴らしい親切、細やかな思いやり、丁寧なもてなしを受けたという印象だった」(同)などの記事を掲載していたことを、ボイコフ氏は著書『オリンピック秘史』(早川書房)の中で紹介している。

^B余談になるが、ナチスにあまりにもあつさりと洗濯されていように手玉にとられてしまうマスメディアの姿は、東京オリンピックが近づくにつれ礼讃報道一色に染め上げられていった2021年の日本のスポーツ報道をみているようでもある。

2

一方で様々な記録から分かるのは、スポーツイベントを使って観る人びとの印象を恣意的^③にある方向へ上書きしようとするスポーツウォッシングの ^d に対し、カウンターとして作用する力を最も強く持っているのは、そこで戦うほかならぬアスリートたち自身である、ということだ。

3

7回の世界タイトル獲得歴を持つルイス・ハミルトンが性的少数者の人権支援を象徴するレインボーカラーのヘルメットを被って参戦し、積極的な発言を行うことで、むしろ啓発活動の発信機会として活用している感もある。また、4回のチャンピオンを獲得したセバスチャン・ベッテルも、レインボーカラーの衣類などを積極的に身にまとい、環境や政治問題などにたいしても忌憚^{きたん}のない発言を行っている。

このハミルトンやベッテルのケースは、スポーツウォッシングに対抗するために選手たち自身が意識して活動すれば、彼らの発言や行動は大きな効果と影響力を発揮する、という好例だろう。また、彼らの行動や発言を様々なメディアが伝えることによって、選手たちの意思と意図を世界中の観戦者に媒介^④する、というメディア本来の機能が十分に果たされることの重要性もまた、見逃せない。

4

2021年の東京オリンピックでも、これに似た光景があった。初日の種目として7月21日に行われた女子サッカーのイギリス対チリ、アメリカ対スウェーデンの試合で、これら4ヶ国の選手たちは試合前に片膝をピッチについて人種差別に対する抗議の意思を表明した。また、ニュージーランド対オーストラリアの試合前には、ニュージーランドの選手たちが片膝をつき、オーストラリアの選手たちは先住民アボリジニの旗を掲げて記念撮影を行った。

7月24日に日本対イギリスの試合が行われた際にも、日本とイギリスの選手たちがともに、試合前にピッチに片膝をついた。この、差別反対の象徴として片膝をつく行為は、2016年にNFL(National Football League)：ナショナルフットボールリーグ)でコリン・キャバニックが黒人差別反対の意思表示として、国歌斉唱の際の起立を拒否して片膝をついた行為に端を発する。これが、やがてBLM(Black Lives Matter)：ブラックライブズマター)運動として世界にひろがってゆくムーブメントの大きなきっかけのひとつになったことは、広く知られるところだ。

とはいえ、このオリンピック女子サッカーでの出来事は、特に日本人選手や日本のスポーツ報道に関する限り、まだあくまでも

も

e

な事例、といったほうがいいのかもしれない。

5

新聞のスポーツ面やテレビニュースのスポーツコーナーは、試合やレースの「感動」と「興奮」にのみ特化して、世の中で起きている出来事をそこから遮断し、まるで無菌室か密閉空間のようにスポーツを扱う姿勢は昨日も今日も変わらない。そしてそれは、たぶん明日も続いている。

5

しかし、健全な批判精神や叛骨心をないがしろにして、あまりにも無垢でナイーブなスポーツの偶像化にのみ集中する態度は、スポーツを使って人びとの心や気持ちを Y しようとする作爲に対して、あまりに無力だ。それどころか、むしろそのウォッシング行為を利用することにすらなってしまう場合もあるだろう。

(西村章『スポーツウォッシング なぜ(勇気と感動)は利用されるのか』による。一部改変。)

(注) 生活地域の再開発により、居住者の所得階層が上位化してゆくこと。弊害として、従来の居住階層であった中低所得者や高齢者たちの立ち退きというしわ寄せが生じることも多い。

問一 傍線部①～⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 空欄 a s e に入る最も適当な語句を次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| a | ア 議題 | イ 物議 | ウ 雰囲気 | エ 絶賛 |
| b | ア 屈指 | イ 天然 | ウ 僅差 | エ 先代 |
| c | ア 批判 | イ 追放 | ウ 不可 | エ 称賛 |
| d | ア 魅惑 | イ 命令 | ウ 思惑 | エ 同意 |
| e | ア 慣例的 | イ 常識的 | ウ 例外的 | エ 感覚的 |

問三 空欄 X には、次の文章が入る。文章中の空欄 I 、 II 本文から書き抜き文章を完成させなさい。

I (八字) を使って、染みのついた評判を洗濯し、慢性的な II (二字) から国内の一般大衆の注意をそらすのだ

問四 傍線部 A「気づかないうちに誰もが日々、スポーツウオッシングにさらされている」とあるが、そうなる理由を「独裁国家」「権威主義的体制」「民主主義国」という言葉を使い、「スポーツウオッシング」という言葉を使わずに、六十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部 B には、ベルリンオリンピック時のマスメディアのあり方と、東京オリンピックにおけるメディアの姿の類似性を示しているが、東京オリンピックにおいてスポーツウオッシングの対象となった事実をア～エの中から二つ選びなさい。

ア 4ヶ国のサッカー選手たちが試合前に人種差別に対する抗議の意思を表明したこと。

イ 開催準備期間からいくつもの不祥事が指摘されたこと。

ウ 試合前にオーストラリアの選手たちが先住民アボリジニの旗を掲げて記念撮影を行ったこと。

エ 世界的なパンデミックが沈静化していない中で大会を開催したこと。

オ 政府が抑圧的な人権政策をとっていること。

問六 空欄

Y

にはすべて同じ言葉が入る。空欄に入る最も適当な言葉を本文から二字で書き抜きなさい。

問七 本文中の

1

,

5

のなかから次の一文が入るのに最も適当な箇所を一つ選び、その記号を答えなさい。

一般的には、日本のアスリートたちがスポーツ以外の「世界の様相」に対して発言し、コミットしていくことを歓迎しない風潮は今も根強い。

問八 傍線部C「健全な批判精神や叛骨心をないがしろにして、あまりにも無垢でナイーブなスポーツの偶像化にのみ集中する」

という日本のメディアの態度は、どのような結果を招いていると考えられるか。本文の文脈に基づいて、当てはまらないものを次のア～エのなかから一つ選び、その記号を答えなさい。

ア スポーツの熱狂と選手の活躍を集中的に報道することで、結果として政権や権力の目論見通りに人権抑圧や差別の事実を押し隠す効果を世の中を与える。

イ スポーツイベント前に様々な批判があつたとしても、いったん大会が始まると「汗と涙の感動」の類型的な競技報道一色に染まり、スポーツ報道がむしろ政治に利用される。

ウ 人々が競技のみに魅了されて、政権や権力に対する批判がむしろ大会の盛り上がり際に水を差す行為と考えられる。

エ アスリートたちがSNS等を通じて、人権抑圧や人権差別などの様々な社会問題に関して積極的に意見を表明する。

問題三

次の文章は『落窪物語』の一節である。なお、中納言は女君(落窪の姫君)の父であり、大將殿(大納言、大臣の息子)は女君の夫である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

かくて、やうやう中納言重く悩みたまへば、大將殿いとほしく思ひ嘆きて、修法などあまたせさせたまへば、中納言、「何かは。今は思ふことも侍らねば、命惜しくも侍らず。わづらはしく何かは祈りせさせたまふ」と申したまふ。弱るやうになりたまへば、「なほ死ぬべきなめり。」^①今しばし生きてあらばやと思ふは、我、年ごろ沈みて、昨日今日の若人ども多く越えられて、なりおとりつるになむ、恥に思ひける。わが君のかばかりかへりみたまふ御世に、命だにあらば、^②なりぬと思ひぬるに、またかく死ぬれば、わが身の大納言になるまじき報にてこそありけれと、これのみぞあかず思ゆること。さても、老いはて死にのはての面立たしさは、おのれにまさる人よにあらじ」とのたまふを、大將聞きたまひて、あはれにおぼゆること限りなし。

女君、「いかで大納言をがな。一人なしたてまつりて、あかぬことなしと思はせたまつらむ」とのたまふを聞きたまひて、げにさせばやと思せど、数よりほかの大納言なさむことは難し。人の、はた取るべきにあらず。

わがを譲らむの御心つきて、父大臣の御許にまうでたまひて、「かくなむ思ひたまふるを。幼き者ども多くはべれど、それが徳を見すべく、行く末あるべきことにもあらぬ代りには、^④このことをなむしはべらむと思ひはべる。御けしき、よろしう定めさせたまへ」と申させたまふ。「何かは、さ思はむを。はやうさるべきやうに奏を奉らせよ。大納言はなくてもあしくもあらじ。わが心なる世なれば」と思してのたまへば、限りなく喜びたまひて、申して、奏奉らせたまひて、中納言、大納言になりたまふ宣旨くだしたまひつ。これを聞きて、大納言、わづらふ心地に泣く泣く喜びたまふさま、親にかく喜ばれたまふに、功德ならむと見ゆ。喜びに、起き立ちて願立てさす。

(『落窪物語』による。一部改変。)

問一 傍線部①「今しばし生きてあらばやと思ふ」とあるが、このように思うのはなぜか。その理由を分かりやすく説明しなさい。

問二 傍線部②「命だにあらば」を現代語に訳しなさい。

問三 傍線部③「なりぬ」とあるが、何になるというのか、本文から書き抜きなさい。

問四 傍線部④「このこと」とは、誰が何をどうすることか。その内容を主語と目的語を明確にして説明しなさい。

問五 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『落窪物語』は

イ

時代前期頃にできた大衆小説であるが、その正確な年代も作者もわかっていない。そうして、文

化の担い手たる宮廷貴紳層からは俗書として貶められ、三流四流の小説の取扱いを受けてきた。おそらく、『源氏物語』や

『枕草子』より先に世に出、もてはやされたと思われるのに、『源氏』にも『落窪』の名は見えず、『枕』の「物語は」のくだりに

も、「すみよし、うつほ、殿うつり、国ゆづり、埋れ木、月待つ女、梅壺の大将、道心すすむる、松が枝、こま野の物語、

ものうらやみの中将、交野の少将」などと並んでいるが、あわれにも『落窪』は無視されている。しかしながら、『枕』にあげ
られたあまたの物語、いかにも魅力的な題で心をそそられるが、大半は散佚^{さんいつ}して世に伝わらない。わずかに『

『ホ』が残っただけである。

(田辺聖子『おちくぼ物語』あとがきによる。一部改変。)

・ 空欄

イ

に入る時代名を漢字で書きなさい。

・ 傍線部口『源氏物語』の作者名を漢字で書きなさい。

・ 傍線部ハ『枕草子』の作者名を漢字で書きなさい。

・ 空欄

二

と

ホ

に入る作品名を漢字で正しく省略せずに書きなさい(順序は問わない)。

二

』と

問題四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

貞観十二年、太宗謂侍臣曰「林深則鳥棲、水広則魚遊、仁

義積則物自歸之。人皆知畏避災害、不知行仁義。行仁義則

X不_レ生_①。夫仁義之道、当_②思之在心、常令相繼_③。若斯須懈怠_④、

去_⑤之已遠。猶如飲食資身、恒令腹飽、乃可存其性命。王

珪頓首曰「陛下能知此言、天下幸甚」

(『貞観政要』による。一部改変。)

(注) 1 物——ここでは人々のこと

2 斯須——しばらくの間

3 性命——生命に同じ

問一 空欄

X

に入る適当な語を本文から書き抜きなさい。

問二 傍線部A「当思之在心、常令相繼。」をすべてひらがな(歴史的仮名遣い)で読み下しなさい。

問三 傍線部B「之」の指示する内容を本文から書き抜きなさい。

問四 傍線部C「猶如飲食資身」を現代語に訳しなさい。

問五 ①～⑤の読みをひらがな(歴史的仮名遣い)で書きなさい。

